

# いわき農林水産ニュース

(ふくしまからはじめよう。「食」と「ふるさと」新生運動ニュース)



11月号 発行 平成25年 11月 27日

## 〈東日本大震災関連〉



### いわき地方の農林畜産物 モニタリング調査結果

福島県が行ったいわき地方の10月の農林畜産物の放射性セシウムモニタリング調査結果をお知らせします。

(表1) 農林畜産物の調査結果(10月末現在)

放射性セシウムが検出されなかった品目と検体数	放射性セシウムが検出された品目と検体数		計
	基準値内で検出された品目と検体数	基準値を超過した品目と検体数	
14品目 42検体	4品目 4検体	0品目 0検体	18品目 46検体

調査した18品目46検体のうち、14品目42検体は、検査機器の検出限界値以下でした。品目としては、ネギ、カリフラワー、ブロッコリー、キャベツ、ショウガ、サツマイモ、ナガイモ、サトイモ、ゴボウ、ダイコン、秋そば、菌床しいたけ(施設)、牛肉、原乳の検体すべてにおいて検出が認められませんでした。

(表2) 1点も放射性セシウムが検出されなかった品目と検体数

ネギ 4	カリフラワー 2	ブロッコリー 1
キャベツ 1	ショウガ 2	サツマイモ 1
ナガイモ 1	サトイモ 2	ゴボウ 1
ダイコン 2	秋そば 3	菌床しいたけ(施設) 3
牛肉 8	原乳 4	

基準値内で検出されたのは4品目4検体で、基準値を超えたものではありませんでした。

(表3) 基準値内で検出された品目と検体数

	シソ(実)	はちみつ	カキ	あけび
検体数	1	1	7	2
検出限界値以下	0	0	6	1
基準値内	1	1	1	1

10月31日現在、いわき地方産の農林畜産物で出荷が制限されているのは、表4のとおりです。

(表4) 出荷制限及び出荷自粛品目(10月末現在)

制限、自粛	区分	品目
出荷制限	野菜・根菜・芋類	無
	果物	ゆず
	穀類	クリ
	山菜	たけのこ、ぜんまい、たらのめ(野生のものに限る。)、わらび、こしあぶら
	きのこ	原木なめこ(露地)、野生きのこ
出荷自粛	畜産物	無
	山菜	さんしょう(野生のものに限る。)

また、昨年に引き続き平成25年産の米についても全袋検査を実施しており、10月末までの検査点数369,923点のうち、99.96%の369,791点が測定機器の測定下限値未満、132点が基準値内で検出が確認されましたが、基準値を超過したものはありません。

(表5) 玄米(平成25年産)検査状況(10月末現在)

	測定下限値未満(<25 <sup>μ</sup> kl/kg)	25~50 <sup>μ</sup> kl/kg	51~75 <sup>μ</sup> kl/kg	76~100 <sup>μ</sup> kl/kg	100 <sup>μ</sup> kl/kg超	計
検査点数	369,791	130	2	0	0	369,923
割合(%)	99.96	0.04	0.00	0	0	100.00

調査結果は、福島県のホームページ「ふくしま新発売。」の農林水産物モニタリング情報、平成24・25年産米については、「ふくしまの恵み安全対策協議会」で簡単に検索できますので、結果をご確認ください。

## 〈一般情報〉



### 農林水産祭「天皇杯」 受賞 (有)とまとランドいわき

(有)とまとランドいわきが、平成25年度第52回農林水産祭の園芸部門で最高賞の「天皇杯」を受賞しました。

農林水産祭は、農林水産物の収穫を感謝し、国民の農林水産業に関する認識を深め、農林水産業者の技術の改善や経営の発展への意識の高揚を図る目的で行われる国を挙げての祭典です。今年度は、全国各地で催されたコンクール等で農林水産大臣賞を受賞した492点の中から選ばれました。園芸部門のほかに、農産、畜産、蚕糸・地域特産、林産、水産、むらづくりの7部門で構成され、部門ごとに三賞（天皇杯、内閣総理大臣賞、日本農林漁業振興会長賞）が設けられており、「天皇杯」は、農林水産業者最高の栄誉です。

(有)とまとランドいわきは、いわきの温暖な気候に合わせた先進的なトマト栽培の実践による高単収の実現、雇用促進やイベント開催、研修生の積極的な受け入れなど、農業を通じた地域の振興や東日本大震災からの復興への取り組みなどが評価され、園芸部門では県内初の快挙となりました。

「天皇杯」は、11月23日（土）に明治神宮で開催された農林水産祭式典において授与されました。



(授与式後の記念撮影)



### 地域の木材でボールペン作成 市立田人二小 木工教室

10月15日（火）、市立田人第二小学校において、田人林業研究会主催による木工教室が開催されました。

田人林業研究会は、子どもたちに地域の森林・林業について理解を深めてもらうため、毎年市内のいくつかの小学校で木工教室を開催しています。今回開催した市立田人第二小学校は、今年度末での閉校が決まっていることもあり、全校児童5人の思い出づくりになればと、地域の木材を使った木製ボールペン作りを行いました。事前に児童がボールペンのデザインを考え、そのデザイン画に基づきオリジナルのボールペンを一本ずつ作成しました。それぞれの作業をのぞき込む児童たちからは、作業工程ごとに喜びの歓声が上がりました。

木工教室の最後には、児童の代表からボールペン作りを通じ素敵な思い出が作れたことへの感謝の気持ちが述べられ、世界に一つだけのオリジナル木製ボールペンを各自大切に持ち帰りました。



(ボールペン作りに熱中する子どもたち)



### サンシャイントマト出荷目揃 会、出発式

「サンシャイントマト」の名称で栽培されているいわき特産の養液栽培トマトが本格的な出荷時期を迎え、10月18日（金）に出荷目揃（めぞろえ）会および出発式が(有)とまとランドいわきを会場として開催されました。

現在、(農)大野水耕生産組合、(有)とまとランドいわき、(株)あかい菜園の3つの菜園が統一したサンシャイントマトのブランド名で栽培、出荷しています。当日は、3菜園の代表及び従業員、(株)平果、JAいわき市、JA全農福島、いわき市、県農林事務所等の関係者が一堂に会し、トマトの品質や規格統一のための目揃いが行われました。

サンシャイントマト出荷協議会では、25年産は、885トン(前年15%増)の出荷を計画しています。

出発式には地元の幼稚園児たちも招かれ、バルーン演技や園児の号令による選別機の稼働等、本格的な出荷のスタートを盛り上げました。

いわき市内の農産物は、県の農産物モニタリング検査に加え、市やJAによる自主検査が行われております。トマトについては今年度も全て放射性セシウムの検出下限値未満となっていますので、安心してお召し上がりください。



(出荷を待つばかりとなったトマト)



(おいしいトマトを楽しみにしています!)



## 首都圏の大学生が来県 「いわきの今を見に行く！ モニターバスツアー」

県農林事務所では、10月19日(土)と26日(土)に、首都圏の大学生を対象にした「いわきの今を見に行く！モニターバスツアー」を開催しました。

これは、次代を担う若い世代の方々に震災・原発事故から2年半を経過した今の「いわき」の姿や取り組みを見て頂き、実際に現地で感じたことなどの意見を伺うことで、いわきの観光・農林水産業の再生に向けた今後の情報発信・風評対策の参考とするものです。19日(土)は40名、26日(土)は30名の参加がありました。

このツアーは、(有)とまとランドいわきで風評対策の取り組みの説明とトマトの摘み取り体験、JAいわき市飯野倉庫(26日(土)はカントリーエレベーター)で米の全量全袋検査の見学、水産試験場で農林水産物のモニタリング状況の説明といわき産の農産物を使ったお弁当の昼食、いわき・ら・ら・ミュウで自由時間、アクアマリンふくしまで被災当時の状況と復旧復興の様子説明と館内の自由見学と、盛りだくさんの内容で実施しました。

参加した学生たちからは、「いわき産の農産物はとてもおいしい」「想像していたよりも厳しい検査を行っていて驚いた」「市場に出ているものは安全だとよくわかった」「食べて応援していきたい」などの感想が聞かれました。

この後、学生たちからは今回のツアーに関するレポートを提出してもらうこととしており、レポートの意見は、今後の情報発信・風評対策の参考としていくこととしています。



(トマト栽培の説明を熱心に聞くみなさん)





(食べ頃のトマトをその場で食べました)



(米の全量全袋検査の説明を聞くみなさん)



(検査を受けた安全なお米)



(アクアマリンパークにて、19日)



(とまとランドいわきにて、26日)

## クロマツ植樹 ライオンズクラブ40周年記念

10月28日(月)、いわき勿来ライオンズクラブ40周年記念式典が錦町須賀海岸で開催されました。

式典には、クラブ会員、関係機関のほか地元の保育園や幼稚園の園児、同市南台の仮設住宅で生活する双葉町の住民など約700人が参加し、地域の復興とクラブの一層の発展を誓いました。

記念事業として、東日本大震災の津波により被害を受けた海岸林を再生する目的で、参加者による約3,000本のクロマツの植樹が行われました。参加者は、海岸林の再生を願いながら一本一本丁寧に苗を植えていました。



(早く大きくなるといいな!)

## 板や端材で作品製作 市立錦東小 出前講座

10月30日(水)、市立錦東小学校において、3年生27名を対象に木とのふれあい創出事業「出前講座」を実施しました。

木とのふれあい創出事業は、自然素材の木材を使った物作りを通じ、子どもたちに木材が生産される森林や木材そのものに対する理解を深めてもらうことを目的に、小学校への木工工作用資材の提供や工作技術の指導を行う「出前講座」を実施するものです。

今回の出前講座では、最初に講師の田人林業研究会の豊田会長が写真などを活用しながら森林や林業の役割について講話を行った後、カナヅチの使い方について技術指導を行いました。

ほとんどの児童が初めてカナヅチを使うということで、最初のうちは上手にクギを打つことができませんでしたが、講師の田人林業研究会のメンバーや協力者の大工さん、県農林事務所職員が各作業テーブルを回りながら指導することで、次第に真っ直ぐクギを打てるようになりました。参加した児童は、板や端材を使い自由に作品づくりを楽しむことができたようです。



(カナヅチの使い方を学びました)



(プロの大工さんに手伝ってもらいました)

## 「田んぼの学校」小学生が 今と昔の脱穀体験

11月1日(金)、市立赤井小学校(5年生58名)の学習田において、県のふくしまの農育推進事業「田んぼの学校」の第6回目となる「脱穀」を行いました。

地元協力農家の根本俊男さんと宮内一雄さんの指導のもと、児童たちは元気いっぱい力を合わせながら、前回の活動で刈り取り、天日干しした稲穂を脱穀していきました。

今回の脱穀では、ハーベスター(自動脱穀機)による脱穀のほか、江戸時代から昭和初期に使われた櫛状の歯で籾をすき取る「千歯扱(こ)き」や明治時代に発明され

た「足踏み脱穀機」、わらくずや籾殻と米を選別する「唐箕(とうみ)」をいわき市暮らしの伝承郷から借用し、これらの機械を使った昔ながらの脱穀も体験しました。

児童たちは、千歯扱きなどの使い方に悪戦苦闘しながらも、昔ながらの脱穀に挑戦していました。無事作業を終えた児童からは、「千歯扱きはあまり上手にお米が取れなかったけど、足踏み脱穀機はポロポロお米が取れて楽しかった」「昔の人はよくこんな機械を作ったなと思った」と感想があり、お米を収穫する大変さと喜びを学んだ様子でした。

また、根本さんからは、「米作りに必要な作業はたくさんあるが、稲の植え方や刈り方よりも一番大切な作業はこの脱穀でした。皆が根気強く、最後まで丁寧に脱穀してくれたおかげで、良いお米が収穫できました」と講評をいただきました。

次回は、「収穫祭」を行い、自分たちで作ったお米をいただきます。



(千歯扱きに挑戦!)



(見慣れない機械に興味津々)





## 「かつおの揚げびたし」が 審査員賞受賞！

地域の食の魅力を伝えることを目的に農林水産省が主催した「第1回地場もん国民大賞」の決選投票が東京丸の内を会場に行われ、いわき食彩館(株)が出品した「ふくしまかつおの揚げびたし」が審査員賞を受賞しました。

“かつおの揚げびたし”は、カツオを焼き揚げ、生姜やニンニクが入った熟成したしょうゆだしに漬けこむ浜通りの伝統料理です。かつお漁獲量有数の場であり、かつおの刺身ををよく食べるこの地域で、余ったかつおの刺身を翌日おいしく食べるための生活の知恵から生まれたものでもあります。

いわき食彩館(株)では、この浜通りの伝統料理“かつおの揚げびたし”が「地域の住民が『地元の食』として、日本に、海外に誇り、伝えたい食品」を表す“地場もん”にふさわしいとして、「第1回地場もん国民大賞」に応募しました。その後の厳正な審査により、全国518点の応募食品の中から、決選投票の対象となる20点に選ばれました。

さらに、このたび、フェイスブックと「ジャパンフードフェスタ2013」来場者による決選投票で入賞を果たし、審査員賞を受賞することとなりました。

今後、いわき食彩館(株)の運営するスカイストアでは、この“かつおの揚げびたし”の商品化を進めることとしています。



審査員賞を受賞した“かつおの揚げびたし”



## 福島県指導林家研修会開催 意見交換と視察で活発化へ

11月7日(木)、8日(金)、平成25年度福島県指導林家研修会がいわき市で開催されました。

指導林家とは、林業経営及び林業技術等において地域の模範であり、地域林業の振興に熱意がある林家を県が福島県指導林家として認定しているもので、現在、22名の指導林家があり、県内各地域で活動しています。

研修会では、指導林家活動検討会と現地研修が行われ、活動検討会では各指導林家が活動状況を報告するとともに、今後の活動に向けての意見交換を行いました。現地研修は、東日本大震災に伴う津波により被災した新舞子海岸防災林の復旧状況、磐城森林管理署仏具山国有林の目兼学術参考保護林、協同組合いわき材加工センター勿来工場の視察研修を行いました。

特に、目兼学術参考保護林は、明治33年に植栽された113年生のスギ人工林の展示林(6.74ha)で、樹高30m以上、胸高直径70cm級のスギ林となっており、磐城森林管理署の担当者から展示林の説明を受けた参加者は、その大きさに感心していました。

なお、この研修会は、毎年各地域持ち回りで開催されており、来年度は、県北地方で開催されます。



(目兼学術参考保護林[田人町]視察)



(隣に立った人との比較)

## 食彩ふくしま地産地消推進店のメニューの紹介

地産地消推進日（12月は8日（日））に合わせ、いわき農林事務所に情報提供のあった食彩ふくしま地産地消推進店のメニューを紹介しますので、ぜひご賞味ください。  
なお、内容は変更される場合がありますのでご了承ください。  
また、営業日（メニューの実施日）については、事前にご確認ください。

いわき食彩館株式会社 スカイストア(平字一丁目)

メニュー： 注文弁当 日替わり弁当 惣菜

説明：いわき、福島県産の安心・安全な食材をふんだんに使用しています。

店舗からの情報：「話題のシェフがつなくいわき旬の食材料理2013」

（12月5日（木）、醸造料理人 伏木 暢顕 氏）開催

## いわき農林事務所からのお知らせ

ふくしまの最新情報を「ふくしま 新発売。」に掲載していますのでどうぞご利用ください。

<http://www.new-fukushima.jp/index.html>

- 1 「がんばろう ふくしま応援店！」一覧
- 2 イベント情報
- 3 農林水産物モニタリング情報

(1)モニタリング情報検索

(2)出荷制限等一覧表

「東日本大震災」

及び「原発事故」からの

復興のために！



皆様からのご意見・情報をお待ちしております。

福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課

〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地

(県いわき合同庁舎 3階)

T E L (0246)24-6152 F A X (0246)24-6196

いわき農林水産ニュース

